

令和5年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

日 時	令和5年6月26日(月) 18:00~20:00
会 場	北広島市役所3階 会議室3C・D
出席委員	橘委員、山口委員、高嶋委員、原口委員、米一委員
傍 聴 者	3名
市出席者	【市民環境部】阿部部長、山田次長 【市民生活課】高橋課長、立野主査、中島主事 【協働事業提案制度担当部署】保健福祉部福祉総合相談室 林相談担当参事

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、会議が成立していること」を確認。

2. 評価・審査についての事前説明

事務局から各種制度の概要及び審査方法等を委員に説明。

～質疑応答～

○A 委員

事前質問は既に各団体に周知されているのか。プレゼンは事前質問を踏まえた内容となっているのか。

●事務局

既に各団体には質問を送付済みです。質疑に入る前に事前質問に回答いただく形になります。

○B 委員

協働事業提案制度について、協働事業が採択された場合、来年度に1年間事業を実施すると思うが、それ以降も引き続き実施していくものなのか。

●事務局

2年目は市と協働事業者との間で継続するかを協議していくことになる。それ以降は、事業報告での委員の皆様からの評価等を踏まえて、継続するか否かを総合的に考えていくことになる。また、市として事業化されるため、事務事業評価対象にもなる。

3. 公益活動事業補助金 公開プレゼンテーション

《令和5年度申請 就労センタージョブ》 発表

2020年4月に「にじのかかるところ」をオープンし、レストランの中にギャラリーを設けることで、アートを通じて、障がい者への正しい理解や活動の周知、交流人口を創出してきた。

今年度は、「アートでまちづくり」というテーマを掲げ、先駆的な取組をしているまちや事務所と協働する機会を設け、障がいの垣根を超えて素晴らしい作品に触れることで、自分の住む町が楽しく豊かな場所になるよう働きかける事業を実施したい。

～事前質問への回答～

令和5年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

- 講師はトークイベントの出演者なのか。
- 講師は協働団体の代表の方に登壇していただく予定。
- イベント手伝いは会員なのか。
- 非会員。協働団体との間を取り持ってくれている外部の方に依頼予定。
- 備品購入費の会場装飾品等は具体的にどのような内容か。
- 飾り棚やテグスなど、展示に使用する備品を購入する予定。
- 案内状の郵送先はどこか。
- 養護学校等の学校関係者、福祉関係の事業所や相談事業者、法人を利用されているご家族等に案内を送付予定。

～質疑応答～

○C 委員

令和4年度の来場者数が想定を上回ったとのことだが、これ以上来場者が増えることは、施設のキャパシティや人員的には問題ないのか。

●就労センタージョブ

現状で一日100名前後の来場者でありキャパシティ的にも問題なく、既存の利用者への対応も十分可能なレベルと考える。

○B 委員

現在、障がい者アートが話題になっており、にじのかかるところもメディアに取材されるなど注目を浴びている。今回、先進的な取組みを行っている団体（あめんぼ）と協働してイベントを実施し、活動を参考にするという事は、将来的に市内の事業者と就労センタージョブのアーティストとのコラボ展開等も考えているのか。

●就労センタージョブ

そういったこともぜひやっていきたい。北広島市にも素晴らしいアーティストがいるとは聞いているが、具体的には把握していないため、今回はまず我々のデザインと地元のガラス工房とのコラボ事業を実施するに至った。今後はこのような事業を拡げて市内に展開していきたいと考えている。

《令和5年度申請 ゆとりの》 発表

イチゴ教室は、去年の8月から寺子屋のような形で始めたもので、自宅を開放して子どもの居場所づくりを続けてきた。時代とともに子どもたちを取り巻く環境も変わってきており、不登校児童も増えてきている中で、そういった居場所のない子どもたちの第3、第4の居場所を提供することで、本活動を通して子どもの孤立予防や健全育成に寄与したい。

～事前質問への回答～

- 講習会ではどのようなことをやるのか。

令和5年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

●地域の活動を行っている市民の方等をお招きして、例えば健康分野であれば、子どもたちと一緒に活動しながら健康についてアドバイスしてもらおうといったことや、地域の方に子どもたちの進路相談等に乗ってもらおう、野菜ソムリエの方をお招きするなどの展開を考えている。

○プリンターについて、固定資産にレーザープリンターがあるが、購入が必要なのか。

●現状固定資産として計上されているものは、5年ほど前に中古で購入しずっと利用しており限界を迎えていることから、今回を機に新たに購入したいと考えている。

○一回当たりの参加想定数は。ボランティア20人の必要性は。

●一回にボランティア20名が動員されるわけではなく、これはボランティア登録者の人数である。毎回の参加者数によってボランティアの数も変わるが、一回当たりの平均参加者数は2,3名のため、ボランティアは1,2名程度の参加となる。特別に配慮が必要な子どもが参加する日があることなどを考慮すると、登録は常に20名程度を保持しておきたいというのが実情になっている。

○案内状の郵送先はどこか。

●近隣の小中学校や学童が中心。その他関連施設等にも掲示等を行い、広く周知を行っていく予定。

～質疑応答～

○C 委員

この活動の参加について、「親が子どもを参加させる」のか「子どもが率先して参加する」のか、親と子どものどちらからのアプローチが多いのか。

●ゆとりの

小学生は、子どもが親に行ってみたいと話して参加することが多い。もっと小さいお子さんは親御さんが連れてきて、一緒に活動をしている。

4. 協働事業提案制度 公開プレゼンテーション

《令和5年度申請 ゆとりの》 発表

大曲の中心地域から少し離れた緑ヶ丘は生涯学習振興会のような組織がないため、福祉的な視点を持った地域の要望に即した世代交流の場として活動を5年実施してきたところであるが、より一層活動の幅を広げることで、世代を超えたコミュニケーションの場や相互協力の機会を増やし、行政では手の届かない部分について、継続的に市民による活動で支えることを狙いとして、市と協働して活動を実施したい。

～事前質問への回答～

○計画では参加者2,000人となっているが、これまでの年間実績は何人くらいか。

●6/24 現在で年間実績としては2,822人（年度6月末締め）。コロナ禍においては、多くて1,900人程度だった。

○事業の成果としての具体的な指標は。

令和5年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

●参加延べ人数は年間 2,500 人以上の予定。参加満足度調査やアンケート等の客観評価も定期的に実施したいと考えている。

100 歳体操やふまねっと等、大半の活動は市の健康ポイントとリンクしているので、これを機に健康ポイントのカードを持つ人が増えてほしい。

～質疑応答～

○D 委員

手作りピザ、バーベキュー、リース等の作成活動における材料費や食材費はどうしているのか。

●ゆとりの

例えばピザだと、ピザ釜を貸し切って実施する場合は、薪付きで一団体 2,000 円で貸し出ししている。材料については参加者自分達で用意をする。リースの場合は材料を含めての費用として参加費 500 円をもらっている。

○D 委員

活動内容の「車庫の中の整備」というのは、一体どういった活動か。また、「ピアノの調律」というのは誰がするのか。

●ゆとりの

車庫の中に木材や工具等が大量に置かれているので、車庫を活動で利用できるように整理を実施した。

ピアノの調律は無料で知り合いの方がやってくれている。

5. 協議事項 ※非公開

6. その他

事務局から市長への答申の流れを委員に説明。

7. 閉会